

最終講義・懇親会にご参加頂いた皆様へ

前略

農工大の見事な桜を愛でて頂くには少々早い時期でしたが、3月5日の最終講義にご出席頂き心より感謝致しております。3月の忙しい時期にもかかわらず、お時間を割いて頂き、身に余る光栄に存じます。

ご出席頂ける方々の名簿をみて、その当時その当時の状況に思いを馳せながら、発表資料を纏めさせて頂きました。学生時代、小向工場時代、研究所時代、農工大時代と分けてみましたが、盛り込めなかった資料も多く、不義理となってしまった部分は心よりお詫び申し上げます。加えて、小職の力量不足もあり、講義そのものの不備も多々あったと思いますが、精一杯の講義をさせて頂きました。今は、大過無く終えることができたことに安堵しております。

また、懇親会にも多数の方々にご出席頂き、懐かしいひと時を過ごす事が出来ました。大変有り難い事と思っております。ご挨拶を頂いた先生方、会社時代の同僚、卒業生には、真心より感謝し、お礼申し上げます。「男(おのこ)は泣かない」と申しましたが、心の中は涙涙に塗っていました。最後の小林先生からの「妻、女房とは何ぞや」との質問、私の答えは答えになつていなかつたと思います。その本当の答えは4月1日からの女房との二人三脚で決まると思います。答えはそれまで待ってください。

退職後につきましては、川上先生に教えて頂いた

「帰去来兮」「悠悠閑閑」

の心境で、暫くは、古人(いにしえびと)の巧みの技に触れながら収集した骨董品の手入れをし、時には、寺社、仏閣を巡りたいと思っています。とは言うものの、当面は、長らく放置してきた庭の手入れをすることが妻からの命令です。衰えた足腰を鍛え直すためには丁度良いので、この命令には「従っても良いかな」と思っています。

若い頃は、人生50年と粹がって生きてきましたが、気が付けば65歳となり、もう少し生きてみようかなと思っています。どうか皆様も、お体をご自愛の上、有意義な人生を全うされますよう、心からお祈りいたします。

草々

鈴木康夫

最後に、4月1日以降の連絡先を以下に記します。

メール : ysuzuki@pf7.so-net.ne.jp

電話 : 045-783-6296 (自宅)